

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.sgepss.org/sgepss/>

第 239 号 会 報 2020 年 7 月 22 日

| 目 | 次 |
|--|--|
| 第 147 回地球電磁気・地球惑星圏学会 総会報告 | 開催の御知らせ 渡邊堯、金尾政紀、 門倉昭、家森俊彦、村山泰啓 …… 18 |
| 会長挨拶 大村善治 | …… 2 |
| 学会賞決定のお知らせ | …… 3 |
| 田中館賞審査報告 | …… 3 |
| 田中館賞を受賞して 中川朋子 | …… 5 |
| 第 30 期第 5 回運営委員会報告 | …… 6 |
| 第 30 期臨時運営委員会報告 | …… 11 |
| 第 30 期第 6 回運営委員会報告 | …… 12 |
| 評議員定数の改定案について | …… 16 |
| 宇宙科学基本法（案）への パブリックコメントについて | …… 16 |
| 第 147 回地球電磁気・地球惑星圏学会 評議員会報告 | …… 17 |
| 国際研究集会（オンライン）Global Collaborations on Data beyond Disciplines | 助成公募 2020 年度宇宙科学奨励賞公募のご案内 公益財団法人 宇宙科学振興会 …… 23 …… 23 …… 23 …… 24 …… 24 …… 25 …… 30 |

第 147 回総会報告

JpGU-AGU 合同大会がオンラインによる開催となったことを受け、第 147 回総会を 5 月 28 日（木）12 時～13 時に Zoom によるオンラインで開催した。国内に在住する正会員 544 名および学生会員 144 名の計 688 名のうち、出席者は 141 名、委任状提出は 165 名の計 306 名（定足数 230 名）で、総会は成立した。大村善治会長による開会の辞の後、議長として松島政貴運営委員が指名された。大村会長による挨拶（*本号に別途記事有り、以下同様）につづき、田中館賞授与式が挙行され、第 177 号として中川朋子会員に授与された。田中館

賞審査報告は大村会長より行われた（*）。学生発表賞（オーロラメダル）授与式では 昨年秋学会における発表を対象に選出された学生会員（佐藤真也会員、安藤 慧会員、南條壮汰会員、古賀亮一会員、奈良佑亮会員、川村勇貴会員、山本和弘会員、稲葉裕大会員、伊藤大輝会員、新城藍里会員）が表彰された。総務担当運営委員から前回総会以降に開催された運営委員会について報告があった。続いて塩川和夫会員から SCOSTEP-STPP 小委員会について、笠原禎也会員から URSI 分科会についてそれぞれ報告があった。議事では第 148 回総会・講演会（2020 年度秋学会）の開催形態について会長から発議があった。

COVID-19 の影響により相模原大会の開催が難しくなる可能性があるなか、会員の成果発表と議論の場を流動的な感染状況の影響を受けずに確保すること、学生発表賞の審査を確実に実施すること、現地開催とオンライン開催を並列に検討することに対するコストの観点から、オンライン開催を早期に決断し、最適解の探索に注力することが望ましいとの説明があり、賛成多数で承認された。

(第 30 期運営委員・総務・海老原祐輔)

会長挨拶

第 30 期会長 大村善治

本学会の総会を初めてオンラインで開催することになりました。会員の皆様と直接お会いして、ご挨拶できないこと残念に思います一方、インターネットのおかげで、このように自宅・職場に居ながら、学会の総会を開催できること、将に学術研究の世界においても新しい時代がやって来たことを改めて実感します。

先ず、嬉しい知らせとして、会員の最近の受賞について報告させていただきます。宮原ひろ子会員が東レ科学振興会から東レ科学技術研究助成を受けられました。課題は「トラバーチン堆積物を用いた太陽活動極小期の研究」です。同じく、宮原ひろ子会員が日本物理学会から第 1 回米沢富美子記念賞を受けられました。藤原智会員が Earth, Planets and Space 誌から EPS Excellent Paper Award を受けられました。論文タイトルは「Small-displacement linear surface ruptures of the 2016 Kumamoto earthquake sequence detected by ALOS-2 SAR interferometry」です。松田昇也会員が Earth, Planets and Space 誌から EPS Young Researcher Award を受けられました。論文タイトルは「Onboard software of Plasma Wave Experiment aboard Arase: instrument management and signal processing of Waveform Capture/Onboard Frequency Analyzer」です。笠原慧会員が科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受けられました。タイトルは「非熱的粒子の直接観測に基づくジオスペースプラズマの研究」です。木村智樹会員が同じく科学技術

分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受けられました。タイトルは「回転天体磁気圏における電磁エネルギーの解放と輸送の研究」です。佐藤夏雄会員が 2020 年度日本地球惑星科学連合フェローになりました。受賞理由は「オーロラの南北共役観測による最先端研究の成果と大型短波レーダー国際共同観測ネットワーク SuperDARN の構築に基づく国際協働研究の推進により」となっております。以上の会員の皆様のご受賞、おめでとうございます。

さて、本年度も西田篤弘名誉会員から西田国際交流基金にご寄付をいただけたことのご連絡を賜りました。厚く御礼申し上げます。

会員の皆様におかれましては、コロナウイルスが蔓延する中、不自由でストレスの多い環境にも拘わらず、研究・教育に研鑽しておられることと察します。このような困難な時であるからこそ、研究発表と学术交流の場を提供するという本学会の機能を強化することによって、皆様の研究の推進に貢献できればと願っております。本学会の活動に関する情報を広く社会に向けて発信することも学会の機能の一つです。ホームページの内容を充実し、アウトリーチ用の分かり易い図面を作成する作業を運営委員会で進めております。学生の方々にとっては、卒業までの時間は限られており、研究をタイムリーに進めることが重要です。学生会員の研究への動機を高めるためにも、秋学会を確実に開催し学生発表賞の審査方法についても検討することを、本日の議題としてとりあげました。会員の皆様のご意見をお聞きし秋学会の成功に向けて活発な議論と提案を頂きますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

学会賞決定のお知らせ

令和2年5月26日に評議員会が開催され、大林奨励賞およびSGEPSS論文賞が下記のように決定されました。授賞式はオンラインで開催予定の秋季大会の総会にて行われます。

(会長 大村善治)

記

大林奨励賞

村上豪 会員

「極端紫外光撮像による地球・惑星プラズマ圏に関する研究」

(Studies on the Earth's and planetary plasmaspheres with extreme ultraviolet imaging)

南拓人 会員

「有限要素法に基づく数値解析手法を取り入れた、津波によって誘導される電磁場変動および火山活動に起因する電気伝導度構造変化に関する研究」

(Studies on tsunami-induced electromagnetic field variation and time-varying electrical conductivity structure associated with volcanic activity, using numerical analyses based on finite element method)

岩井一正 会員

「先進的電波観測装置の開発に基づく太陽大気および太陽圏の研究」

(Studies on solar atmosphere and heliosphere based on the development of leading-edge radio telescopes)

SGEPSS 論文賞

Satoshi Kasahara, Shoichiro Yokota, Takefumi Mitani, Kazushi Asamura, Masafumi Hirahara, Yasuko Shibano & Takeshi Takashima

“Medium-energy particle experiments—electron analyzer (MEP-e) for the exploration of energization and radiation in geospace (ERG) mission”

Earth, Planets and Space, **70**, 69, 2018

以上

田中館賞審査報告

第177号 中川朋子 会員

論文名：「太陽風の磁場構造及び人工衛星・小型天体との相互作用に関する研究」

(Studies on the solar wind magnetic structure and its interaction with small bodies in space)

日々変化する太陽風はSTP分野における諸現象の源であるが、我が国が太陽風を直接観測できるようになったのは1985年打ち上げのハレー彗星探査機「さきがけ」が最初である。中川朋子会員は、「さきがけ」による太陽風磁場観測に参加して以来、太陽風磁場の3次元構造の解析と、太陽風が小天体や衛星と相互作用して発生する電磁現象の解明に取り組んできた。この分野の研究において、中川会員は我が国での第一人者であることは勿論、その成果は国際的にも広く認められている。以下に、その概要を述べる。

1. 太陽風磁場の3次元構造の研究

太陽風が一樣かつ定常的に吹き出すものならば、惑星間空間磁場の方向はアルキメデススパイラルに沿うはずであるが、実際に観測される磁場はこの方向から外れることが少なくない。このような非スパイラル磁場は、太陽面上の放出源の非一樣・非定常性を反映しており、太陽風が太陽表面のどこから放出されたのかを知る上で重要な鍵となる。

中川会員は「さきがけ」によるわが国初の惑星間空間磁場観測データを解析することによって、非スパイラル磁場が、方向・強度とも不連続的に激しく変化しながらも、黄道面と、ある角度をなす平面内に対し平行を保つ「平面状磁場構造」を見出した。そして、この構造が太陽圏のセクター境界から放出され、特に太陽表面の黒点近くの活動域膨張に対応していることを明らかにした。

「平面状磁場構造」の存在はその後、さまざまな衛星・探査機によって確認され、Interplanetary Coronal Mass Ejection (ICME)の前面によく現れることから、現在では宇宙天気に関わる分野で利用されている。

中川会員はまたICMEの構造解析にも取り組み、火星探査機「のぞみ」とACE衛星の2機が同一の

magnetic cloud をほぼ同時に観測した例を解析し、両者の観測による磁場方向の違いが、小さな曲率半径を持つトーラス状のフラックスロープ構造で説明されることを示した。

2. 太陽風と月との相互作用に関する研究

中川会員は、月や彗星、人工衛星などの、小さな天体・飛翔体と太陽風との相互作用に顕著な業績を上げてきた。これは本学会が取り組む太陽風と惑星磁気圏との相互作用というテーマと並ぶ、重要研究課題である。地球のような大規模な磁気圏を持たない月は、従前は太陽風粒子を単に吸収するだけの天体と考えられていたが、中川会員は、月半径の 27 倍上流の太陽風中で Geotail 衛星によって観測された 1Hz 以下の磁場変動に着目し、これが太陽風と月との相互作用によって生じていることを明らかにした。中川会員は、惑星間空間磁場 (IMF: Interplanetary Magnetic Field) の磁力線が Geotail 衛星と月とをつなぐ配置になった時だけ、この現象が検出されることを見出し、この磁場変動が月から太陽風上流に向かってさかのぼって伝搬するホイッスラーモードの電磁波であることを示した。当時はまだ月と太陽風の相互作用は予想されていなかったため、中川会員の発見は画期的なものであった。

月周回衛星「かぐや」は月面および月の磁気異常固有磁場による反射プロトンを発見したが、中川会員は、この反射プロトンが太陽風中の磁気流体波とサイクロトロン共鳴することによって周期 100 秒の磁場変動を励起していることを明らかにした。これは地球のバウショック上流で見られる反射イオンと太陽風の相互作用と共通のメカニズムである。さらに中川会員は月の昼側で 0.1-10Hz の周波数帯の磁場変動が卓越していることも明らかにした。これは月の固有磁場上空でミラー反射した電子によって励起されたホイッスラーモード波と考えられる。月周回衛星「かぐや」はまた、いったん昼側月面で反射した太陽風プロトンがサイクロトロン運動によって月の夜側に回り込む「タイプ II エントリー」を発見したが、中川会員は、これに伴って、通常は静穏なウェイクの深部に 0.1-10Hz の磁場変動が生じていることも発見している。

月の上流で検出されたホイッスラーモード波の励起を説明するため、月周辺の電磁環境の全粒子シミュレーションを実行し成果を上げている。イオンの熱速度がバルク速度より遅く、電子の熱速度はバルク速度より速いという太陽風の性質を用い、月面に衝突した太陽風粒子を月面に吸着させる粒子シミュレーションにより、月の下流にはウェイクが形成され、ウェイク中の夜側月面は電

子のみが衝突し負に帯電するという構造を再現することに成功した。さらに昼側月面と夜側月面との境界に強い電場が生じることも示した。粒子シミュレーションコードに磁場凍結の条件を加えることによって太陽風磁場を導入することにも成功し、帯電及び電場構造に非対称を生じることを明らかにした。また夜側月面が負に帯電していることにより、ウェイクへのイオンの侵入速度は従来よく使われてきた自己相似解モデルよりも速いことも示された。

3. 太陽風と彗星・人工衛星等との相互作用に関する研究

1986 年のハレー彗星接近時には、彗星起源のイオンと太陽風中の磁気流体波とのサイクロトロン共鳴により励起された磁場変動が観測され、その周期から彗星起源の水族イオンの存在が明らかにされたが、中川会員はわが国初の惑星間空間磁場観測データのオフセット除去などの 1 次処理方法を開発し、その磁場変動の検出に大きな貢献を果たした。

また中川会員は、人工衛星とその周辺プラズマとの相互作用についても成果をあげてきた。人工衛星による電場観測や粒子観測にとって、衛星の電位と光電子電流の理解は重要である。中川会員は様々なプラズマ環境における Geotail 衛星の光電子電流量を粒子観測データに基づいて算出し、プラズマ環境の変化と衛星電位との関係をモデル化することに成功した。

これらの研究成果は、スケールの小さな非磁化天体や飛翔体と太陽風との相互作用について新しい知見を与えたものであり、今後、様々な空間・時間スケール間での物理現象の理解に向け、磁気圏物理学、宇宙プラズマ物理学の発展に大きく貢献することは間違いない。

これらの研究業績に加え、中川会員は SGPSS 波動分科会幹事、大林奨励賞推薦委員会委員 (2011~2013 年度)、同委員長 (2013~2015 年度)、SGPSS フロンティア賞推薦委員会委員 (2019 年 1 月~2021 年 12 月予定) などの活動を通して、SGPSS の運営と発展に尽力するとともに、名古屋大学宇宙地球環境研究所 (2014 年度までは太陽地球環境研究所) の共同利用委員、太陽圏専門委員会委員および同委員長として、関連分野の研究者の学問的・人的交流促進に貢献してきた。また国際電波科学連合 (URSI) Asia Pacific Radio Science Conference (AP-RASC) 等、国際会議でコンビーナを務めるなど、国際的にもこの分野の発展に貢献してきた。

以上述べたように、中川会員は、太陽風磁場の 3 次元構造及び太陽風と衛星との相互作用につ

いて研究業績を挙げ、独自の観点で研究に取り組み STP 分野の進展に寄与し、また SGEPPS を中心とした委員会活動により太陽圏に関わる研究者の活動を支えてきた。これらの業績と学会活動を評価し、中川会員に田中館賞を授与した。

田中館賞を受賞して 中川朋子

地磁気観測、地球物理学のみならず日本の物理学の創始者の一人でもある田中館愛橋博士の名を冠する賞をいただくことは文字通り身に余る光栄です。本学会が私のような小さい者にも目配りくださっていることを表すものと考えております。これまでご指導を賜りました先生方、いつも助けてくださる会員の皆様に心よりお礼申し上げます。

我が国初の惑星間空間探査機「さきがけ」が観測を開始する年に大学院進学という巡り合わせに恵まれ、東北大の大家研究室において、斎藤尚生先生と湯元清文先生のもと太陽風磁場データの1次処理から研究を始めました。見るデータ見るデータが面白く、学会で何を発表しても我が国初で、喜んで聞いていただくことができました。太陽風磁場の方向が常に教科書通りのパークースパイラルの方向とは限らないということも驚きをもって迎えられました。論文になる以前の生のデータを自前の観測で見ることの重要性を感じました。ハレー彗星起源の水族イオンによる磁気流体波の検出にも少しだけ貢献することができました。日本の宇宙科学の黎明期に20年先のハレー彗星接近に向けた準備をしてこられたさきの世代の先生方に敬意を表します。

「さきがけ」「すいせい」の観測では宇宙研の小山孝一郎先生、向井利典先生にお世話になっていました。何度も通ううち宇宙研の現場の迫力に惹かれ、博士課程からは宇宙研に移り西田篤弘先生のご指導を受けました。「あけぼの」「ジオテイル」の打ち上げ前でしたが、太陽風磁場の解析をやりたいうようにやらせていただき、非スパイラル磁場の平面状構造の研究につながりました。西田先生には国際的な発表の場にも出していただき、独り立ちしていける自信が持てるようになりました。

赴任した東北工業大学は、学生が大学院に進学を考えるより先に就職が決まってしまうという大学で、院生がいても上の学年がいないことがほとんどでしたが、鶴田浩一郎先生のご助言でジオ

テイル衛星の電位と光電子電流の関係を調査したり、羽田亨先生の研究室に粒子シミュレーションを習いに行ったりして成果を上げることができました。月と太陽風の相互作用の研究は学部生の卒業研修から始まったものです。地球物理や宇宙プラズマの予備知識のない4年生はただ実直にデータを見ることしかできませんが、それによって月からのホイストラ波を発見してくれました。「かぐや」衛星の上がる5年前のことでした。

これがきっかけとなり、綱川秀夫先生にお声をかけていただき、「かぐや」衛星の磁場データを解析させていただくことができました。月は、太陽風中にただ在るだけで、下流にウェイク、夜側に帯電、境界に電場、昼側に反射粒子を生み出します。イオンスケールの現象も電子スケールの現象もあり、宇宙プラズマの実験場としてうってつけの環境です。バルク速度がイオンの熱速度より速く電子の熱速度より遅いという太陽風の性質が、その面白さの源となっていると思います。「かぐや」衛星のデータ解析に当たっては、西野真木さんと斎藤義文さんに大変お世話になりました。お二人のご助力なしには何もできなかったと思います。



最近では三好由純さんにお声掛けいただき、「あらせ」衛星の電場データの調査に参加させていただいております。宇宙空間の衛星電位や電場の評価は難しいものですが、電場データの信頼性の向上にいくらかでもお役に立てたらと思います。ERG のチームで感じるのは若手の皆様の優秀な

こと。ロードマップのあるような主流の研究は皆様にお任せし、中川研は他の人のやらないあさつての方向を掘り進めていきたいと感じた次第です。

日頃、1年生の数学の答案にまみれている私にとって、学会の皆様にご助言は一つ一つが貴重で有難く、心より感謝しております。このご恩に報いることができるよう、今後も努力してゆきたいと思っております。

第30期第5回運営委員会報告

日時：2020年3月31日（火）10:00-17:00

場所：Zoom

出席（総数18名、定足数11名）：大村善治（会長）、山本衛（副会長）、浅村和史、阿部修司、天野孝伸、臼井洋一、海老原祐輔、大矢浩代、加藤雄人、坂中伸也、佐藤光輝、橋本久美子、津川卓也、松島政貴、三好由純、山本裕二、行松彰、吉村令慧

議事

00. 前回議事録の確認（総務）

前回議事録の確認をした。また、前回運営委員会からの動きとして、下記事項等について、報告された。

日本学術会議マスタープラン2020決定
各種賞の推薦・採択状況
礼状関連

01. 協賛・共催関係（庶務）

メール審議で承認済みの下記案件について報告された。

共催

ISSS-14（2020年9月10日～18日、神戸大学）（→延期が決定）

第28回衛星設計コンテスト（最終審査会：2020年10月31日、富山県民会館）

協賛

日本流体力学会 年会2020（2020年9月18日～20日、山口大学）

UT21（Underwater Technology 2021）（2021年3月1日～4日、東京大学）

後援

PWING-ERG conference and school
（International conference and school on dynamical variation of particles and waves in the inner magnetosphere and ionosphere using satellite and ground-network observations and modeling）（2021年3月7日～12日、名古屋大学）

02. 入退会審査（庶務）

65歳未満であるがシニア会員希望が1名あった。

シニア会員は学会規約において原則65歳以上が条件であるが、原則から外す一つの基準として、年金等を受給していることが考えられることなどが議論された。審議の結果、本申請を認めることとした。また、今後もシニア会員の制度の在り方については議論することとした。

03. 会計（会計）

長期未納者について

現時点で4年以上滞納している方に督促状を送付し、部分的にでも未納分の納付がない場合は5月29日（金）を期限として強制退会とする。

JpGU-AGU 2020でのPACデスク

JpGUの現地非開催発表を受け、PACの現地参加はキャンセル、会費振込・支払方法変更等のための代替デスク開設措置はとらない、方針とすることについて審議され、承認された。

JpGU-AGU 2020への寄付金

JpGUから、託児所の開設費に充てるための寄付の依頼があった。しかし、JpGUの現地開催が行われない現状、寄付を行うか否かについて審議された。審議の結果、2021年度からは用途を特定（託児所開設費）して寄付する方針で進めることとした。

監査

第146回秋学会会計報告、2020年度会費の徴収、会計監査について報告された。

04. 助成、学会賞関係

04-1. 国際学術交流外国人招聘と国際学術交流若手派遣（助成）

2020年度の国際研究集会補助として審議・採択された「第14回宇宙空間シミュレーション国際学校」への補助について、申請

者から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を1年延期すること、また対象期間外への延期後も本助成を利用したい旨連絡があった。審議の結果、当該国際研究集会補助について、大きな条件の変更がないことを条件に、延期後の利用を認めることとした。

国際学术交流事業において、旅費支給に関わる経費削減策として、下記対応をすることが審議され、承認された。

- ▶ 航空券代・宿泊費の相見積り等を申請書の注意書きに加え、経費削減への協力を促すこととする。また、高額な場合には減額を条件付きとすることなどの対応を行う。
- ▶ 運営委員会での審査回数は現状(年4回)を維持するが、助成対象の期間を広げることで、安価に航空券やホテルを予約できるようにする。

04-2. JpGU 会期中に開催する集会の会場費支援

JpGU の現地非開催となったため、会場費支援は行わないこととした。

04-3. 学生発表賞

- 2019 年度秋学会(熊本) 審査会において、審査員から受賞者数を増やしたいという意見が出ていたことについて、事務局と情報を照合し分析した。その結果、過去の運用から逸脱し規約の見直しを迫るほどの要望ではないことから、次回大会前の事務局の打ち合わせで審査会中の対応について確認することとする。
- 2020 年度での学生発表賞審査対象について
審査員負担の軽減を考慮し、学生が審査を受けることを辞退できるようにすることについて議論された。審査委員の負担軽減という点では、原則として全学生発表を対象とすることは維持するが、学生の辞退を受け付ける方針とすることで承認された。規約への反映については、引き続き検討することとした。

05. 秋学会関係(秋学会担当)

05-1. 2020 年度秋学会の準備状況

新型コロナウイルス感染症状況に応じた最善の開催形態を模索し、準備を進める。

- 2020 秋学会概要
 - ▶ 日時: 2020/10/31(土)(アウトリーチ), 11/1(日)~4(水)(講演会・総会)
 - ▶ 会場: 下記の3会場(神奈川県相模原市)
 - ◇ 相模原市立産業会館(口頭・特別講演会・総会等)
<https://hall.ssz.or.jp/>
 - ◇ けやき会館(ポスター・懇親会)
<https://www.sagamiharashi-mac-himidori.or.jp/keyaki>
 - ◇ 相模原市立総合学習センター(アウトリーチイベント)
<http://www.sagamihara-kng.ed.jp/>
 - ▶ 大会委員長: 中村正人 会員(宇宙科学研究所)
- 今後のスケジュール
 - ▶ 6/24(水): 投稿受付開始(sgepssallへ通知)
 - ▶ 7/24(金): 投稿締切(正午厳守) 延長なし
 - ▶ 8/6(木)~8/16(日)頃: コンビーナによる各セッションのプログラム編成作業
 - ▶ 9/10(木)頃: プログラム(暫定版)のWEB公開
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う要検討事項
 - ▶ 基本方針
研究活動のレベルを可能な限り維持するため、できる限り通常通りの開催を目指す。状況に応じた最善の開催形態を模索する。
 - ▶ 「新投稿システム」への移行の観点
運営委員会体制が30期として継続している今年度のうちに、予稿投稿~プログラム編成~ウェブ構築~冊子PDF作成、という一連の作業を実施経験しておくことが必要。
 - ▶ 「会場」の観点: 開催形態の検討
開催形態について十分に検討を進めておく。「完全開催」、「縮小開催」、「電子開催」それぞれについて、検討すべき項目がある。参考として、電子

開催について、春期の物理学会などでは、講演予稿 and/or 発表 ppt 等の登録及び参加費支払があれば発表成立としている。

- 「会場」の観点：開催形態の判断 SGEPS 秋学会に先立ち、他学会の秋季大会が続々と開催されるはずなので、その準備・開催状況を注視する。また、時期・条件を詰めていく必要がある。

新型コロナウイルス感染症対応に伴う上記等の要検討事項について審議された。提案された方針のとおり、完全開催として準備を進めるが、状況に応じて柔軟に対応し、最低でも電子開催を行うことで、中止にはしない方針とした。今後、AGU など他の学会などの動向も注視して、秋学会開催方法の指針としていくこととする。

05-2. 新投稿システム

前回運営委員会以降、JTB コミュニケーションデザイン (JCD) 担当者とのメール協議を行い、デモサイトでのテストによるフィードバック内容を伝達、対応依頼している。JCD から説明された業務委託契約書案、見積書について審議され、承認された。

今後の予定として、例年の秋学会システムの契約と同様に学会宛に JCD から契約書を郵送、契約手続きを完了 (4 月中)、6 月中旬までに投稿サイトの構築と点検作業をする。

05-3. 特別セッション

2020 年秋学会での特別セッションの募集の仕方 (会報掲載原稿、新型コロナウイルス感染症に伴う検討事項等) について審議された。基本的には通常通りの開催を目指し、最低でも電子開催で、この日程で開催することを踏まえた案内をすることとした。

05-4. プラズマ宇宙物理3学会合同セッション プラズマ 3 学会の特別セッションへの提案 に関する方向性について報告された。

06. アウトリーチ活動 (アウトリーチ)

06-1. 2020 秋学会アウトリーチイベント

- ・ アウトリーチイベント概要について説明があった。
 - イベントタイトル：(仮・科研費申

請) デジタル惑星大冒険！ -電波と磁石で不思議を探れ-

- イベント開催日：2020 年 10 月 31 日 (土)
- 場所：相模原市立総合学習センター
- ・ アウトリーチイベント実施体制について、昨年の熊本大会での反省を踏まえ、変更したい旨提案があり、承認された。

06-2. 衛星設計コンテスト

今年の第 28 回衛星設計コンテストの進捗状況等について報告があった。最終審査会 10/31 が SGEPS 秋学会初日のアウトリーチイベント開催日と重なり、担当者 2 名も重なっている為、最終審査会への出席者について今後調整する。

実行委員として大村会長、行松運営委員、企画委員として田所裕康会員の委嘱をしてよいか、また学会からの審査委員会及び実行委員会に関わる旅費支給 (基本的には企画委員と審査委員だが、場合によっては会長・実行委員を含む) について審議され、承認された。

また、コンテスト Web 更新作業の中で、主催学会ロゴの使用許可を求められていることから、学会ロゴの使用について審議され、承認された。

06-3. 地学オリンピック本大会用チラシ

前回運営委員会で作られたコメントをもとに、訂正原稿を作成したが、新型コロナウイルス感染症の影響で本大会が中止になったため、印刷中止とした。今後同様の案件には、アウトリーチ予算にて印刷を発注して対応することとする。

06-4. 学会パンフレット、および Web コンテンツの外注について

アウトリーチ担当内で、主に下記の 2 点について議論することとする。

- ・ イラストイメージの集約作業の体制について
- ・ SGEPS の研究領域の分類について

07. 男女共同参画関係について (男女共同参画)

男女共同参画学協会連絡会第 18 期第 2 回運営委員会が 3 月 30 日開催予定のところ、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 5 月 8 日に延期されたことが報告された。

下記2つの案件について、審議が行われ、承認された。

- ・ 新WG 設立準備 TF 内規の改定
設置期間を2021年3月31日までと設定
- ・ 新WG 設立趣意書の承認
これをもとに内規を作成する

08. EPS 関係 (雑誌)

- ・ 科学研究費補助金
今年度よりの科研費は、JpGU 決算スケジュールに沿って収支簿を作成する。
- ・ 基金会計
出版社からの APC 一部還元送金時に、ドイツにて源泉徴収された所得税について、必要手続きの上、還付された。
プロモーション経費の出版社とのシェアについて、毎年度の交渉による不確実性を排除するために、出版契約の追加という形で明文化することについて出版社から提案があった。加えて、2020年1月以降は、学会員向け APC 補助についての EPS への請求を3か月毎から毎月に変更したい旨の打診があり、両者を出版契約の追加契約として、2020年3月1日付けで結ぶことになった。
年間 2300 ユーロが、プロモーション経費として支払われる。
- ・ 論文出版状況
新型コロナウイルス感染症対応で編集関係の作業に遅れがあるものの、出版数については昨年同時期より増えていることが報告された。
- ・ 広報について
Society サイト、SNS (Twitter、Facebook) での広報を継続する。AGU Fall Meeting では、JpGU ブースでの広報実施、編集事務局員を派遣した。EGU の現地開催見送りを受けて、ブース出展中止、AOGS についても同様の対応とした。
- ・ JpGU-AGU Joint Meeting でのブース出展を準備中であったが、現地開催見送りを受けて、メール等での宣伝を検討中。
- ・ その他
次期編集長・副編集長の選出、及び EPS 各賞の決定について報告された。

09. Web 関係 (広報 Web)

掲示板の更新 (第 30 期第 4 回臨時運営委員会 2/18 以降) を行った。今後、会報 238 号のアップロード、レンタルサーバドメイン更新を行う予定。

10. メーリングリスト関係 (広報 ML)

sgepssall, sgepssbb, sgepssstd 配信先アドレスの月例更新、臨時更新を実施した。

11. 会報関係 (広報会報)

会報 237 号を 2019 年 12 月 19 日に発行した。また、会報 238 号スケジュールについて報告された。

12. 連合対応 (連合対応)

日本学術会議シンポジウム／第 9 回防災学術連携シンポジウム (2020 年 03 月 18 日 (水)、会場：日本学術会議講堂) については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、シンポジウム当日は発表者・主催関係者と報道関係者のみが日本学術会議に集まり、発表の様子はインターネットを使って中継された。
2020 年度予定として、JpGU 2020 でのパブリックセッション (O-02)、国際セッション (U-16)、環境災害対応委員会について報告された。

13. 将来構想検討 WG

学会将来構想文書の改訂については、改訂終了し、以下の予定で公開予定であることが報告された。

- ・ 4 月中旬くらいまで：将来構想検討 WG で確認
- ・ 5 月末まで：会員に展開。その後、学会 Web ページで公表

また、JpGU での幕張での開催が見送られたことをふまえて、オンラインでのミーティングについて検討を行う。

WG 対面会合において、2020 年度秋学会における学会将来計画に関する特別セッションの可能性が議論された。秋学会の会場の予定、また今後の新型コロナウイルス感染症の状況、プラズマ 3 学会の特別セッション検討もあることから、必ずしも 2020 年度の実施ではなく、2021 年度以降の実施の可能性も検討することとする。

14. その他

14-1. 第 147 回総会の開催について

JpGU-AGU Joint Meeting を幕張メッセで現地開催しないことが決定された。学会内規第17条「通常総会は年2回開く。」により、何らかの形で総会を開催する必要があるため、第147回総会をZoomによる遠隔で開催することが提案され、審議の結果承認された。Zoomの機能による承認の方法や、500人まで収容可能な他の手段がないかなどについては、引き続き検討することとした。

田中館賞、オーロラメダルの授与式をどのように実施するかが議論された。日付は総会開催の日とし、賞状はすぐに郵送、秋学会に登壇して紹介することとした。

運営委員会及び評議員会についてもZoom開催とする。

関連して、学会としてのZoomライセンスの保有や、Zoomの分科会での利用、秋学会での電子開催での利用などについて議論があった。Zoomの規約や会員の強いニーズなども調査しつつ、引き続き検討することとする。

14-2. JpGU プログラム委員報告

JpGU2020 に採択された SGEPPSS 共催セッション (18 件) は以下の通り。

1. P-PS01 [E] Outer Solar System Exploration Today, and Tomorrow, 木村 淳 (大阪大), Kunio Sayanagi (Hampton U), 土屋史紀 (東北大), Steve Vance (NASA/JPL)
2. P-PS02 [E] 月の科学と探査 (Lunar Science and Exploration), 西野真木 (JAXA), 鹿山雅裕 (東大), 長岡央 (JAXA), 仲内悠祐 (JAXA)
3. P-PS08 [E] Mars and Mars system: results from a broad spectrum of Mars studies and aspects for future missions, 宮本英昭 (東大), 臼井寛裕 (JAXA), 原田裕己 (京大), Sushil K Atreya (University of Michigan Ann Arbor)
4. P-EM11 [E] 太陽圏・惑星間空間 (Heliosphere and Interplanetary Space), 岩井一正 (名大 ISEE)、成行泰裕 (富山大)、坪内健 (電通大)、西野真木 (JAXA)
5. P-EM12 [E] 大気圏－電離圏結合 (Coupling Processes in the Atmosphere-Ionosphere System), Liu Huixin (九州大), 大塚雄一 (名古屋大), Yue Deng (U Texas), Chang Loren (NCU, Taiwan)
6. P-EM13 [E] Dynamics of Magnetosphere and Ionosphere, 中溝葵 (NICT), 尾崎光紀 (金沢大), 佐藤由佳 (日本工業大学), 藤本晶子 (九工大)
7. P-EM15 [E] Plasma Theory and Simulation, 銭谷誠司 (神戸大), Fan Guo (LANL), 梅田隆行 (名古屋大), 天野孝伸 (東大), 成行泰裕 (富山大)
8. P-EM16 [E] Magnetospheric Multi Scale (MMS) mission: Accomplishments and Future Plans, 齋藤義文 (JAXA), J.L Burch (SwRI), B.L. Giles (NASA/GSFC), 長谷川洋 (JAXA)
9. P-EM17 [E] 宇宙天気・宇宙気候 (Space Weather and Space Climate), 片岡龍峰 (極研), Antti Pulkkinen (NASA/GSFC), 草野完也 (名古屋大), 坂口歌織 (NICT)
10. P-EM18 [E] 太陽地球系結合過程の研究基盤形成 (Study of coupling processes in solar-terrestrial system), 山本衛 (京大), 小川泰信 (極研), 野澤悟徳 (名古屋大), 吉川顕正 (九州大)
11. P-EM19 [E] Dynamics of the Inner Magnetospheric System, 桂華 邦裕 (東大), Aleksandr Y Ukhorskiy (APL), 三好由純 (名大), Lynn Kistler (UNH/Nagoya U.)
12. P-CG24 [E] 宇宙・惑星探査の将来計画および関連する機器開発の展望 (Future missions and instrumentation for space and planetary science), 吉岡和夫 (東大), 笠原慧 (東大), 小川和律 (神戸大), 尾崎光紀 (金沢大)
13. P-CG25 [E] 惑星大気圏・電磁圏 (Planetary Magnetosphere, Ionosphere, and Atmosphere), 関華奈子 (東大), 今村

第 30 期臨時運営委員会報告

剛(東大), 前澤裕之(大阪府大), 寺田直樹(東北大)

14. S-EM19 [E] Earth and planetary magnetism: Observations, modeling, and implications on dynamics and evolution, 小田啓邦(産総研), 高橋太(九大), Courtney Jean Sprain (U Florida), 臼井洋一(JAMSTEC)
15. S-EM20 [E] Electric and Electromagnetic survey technologies and the scientific achievements: Recent advances, 馬場聖至(東大), 後藤忠徳(兵庫県立大), 内田利弘(産総研), 茂木透(北大)
16. S-EM21 [J] 電気伝導度・地殻活動電磁気学, 松野哲男(神戸大), 畑真紀(東大)
17. S-EM22 [J] 地磁気・古地磁気・岩石磁気, 佐藤雅彦(東大), 加藤千恵(東工大)
18. M-GI33 [E] Data assimilation: A fundamental approach in geosciences, 中野慎也(統数研), 藤井陽介(気象研), 三好建正(理研), 宮崎真一(京都大)

14-3. 学会の対象領域を象徴するグラフィックスの作成について

学会がカバーする研究領域を一般の方にわかりやすく伝えること、会員にも広く使ってもらえる図であること、をコンセプトとし、グラフィックスの作成を検討中。研究領域の数、ブラッシュアップの方法、ウェブサイトでの利用について議論された。

14-4. 評議員の選挙について

評議員会では、現状すべての分野をカバーしていない問題があるため、分野間のバランスを取る方策について議論され、学会規約および内規の改訂案が作成された。今後、春の評議員会で意見を頂き、秋の総会に諮ることとした。

(第 30 期運営委員・庶務・津川卓也)

日時: 2020 年 4 月 30 日 (木) 13:00-15:00

場所: Zoom

出席(総数 18 名、定足数 11 名): 大村善治(会長)、山本衛(副会長)、浅村和史、阿部修司、天野孝伸、臼井洋一、海老原祐輔、大矢浩代、加藤雄人、坂中伸也、佐藤光輝、津川卓也、橋本久美子、松島政貴、三好由純、山本裕二、行松彰、吉村令慧

議事

01. 第 147 回総会開催方式について

- ・ オンライン開催のためのソフトウェアについて、Zoom、WebEx、Google Hangout、Microsoft Teams、Skype for Business などの候補から、100 名以上の規模の会議のスムーズな開催実績がある Zoom を選定した。
- ・ Zoom には過去にセキュリティに関して問題があったため、国内外で Zoom の利用が禁止されている機関が存在することが指摘された。事前申請により使用が認められることもあるため、会員には早めに Zoom 開催の旨を周知し、問題がある場合については個別に対応策を考える。
- ・ Zoom の URL 通知方法については Zoom の参加者登録機能を用いることとし、庶務より登録のための URL を sgepssall にて周知する。(従来のメールフォームおよび Google Form による電子委任状の提出依頼メールに参加者登録の URL を記載する。)
- ・ インターネット回線に問題のある会員は電話による参加も可能であるが、通話料が高額となる恐れがある。進行の大きな予定をあらかじめ示し、部分参加もできるように配慮する。また、通信量を減らすために参加者のビデオ映像配信はしないこととする。
- ・ 出席者数把握のため参加者 1 人あたり 1 デバイスでの参加となるようあらかじめ依頼し、Zoom の参加者数を用いて(委任状の数も勘案し)議決の定足数確認に用いる。チャットなどの機能を用いて出席者を把握する方法も考えられるが、自己申告であること、Zoom に慣れていない会員も多いこ

とを考えると、Zoomの参加者数を用いるのが最も適当である。

- ・ オンライン開催のため海外会員も比較的容易に出席が出来るが、定足数は学会規約通り国内在住の会員（正会員および学生会員）数とする。
- ・ 質問の受け付けについてはチャット機能、挙手機能などと通常の音声による発言を併用する。
- ・ 議決の際には Zoom の投票機能を利用し、反対意見等については会員からの音声による発言を受け付ける。
- ・ 何らかの要因で Zoom が使えなくなった場合のバックアップとして WebEx 等を検討する必要がある。そのためにも早めにリハーサルを行なうこととする。
- ・ 総会中の運営委員の連絡用に通信手段（別の Zoom セッションなど）を用意しておく。

02. 秋学会の開催形態について

今年度の秋学会の開催形態（現地開催またはオンライン開催）について議論した。

- ・ 既に会場のキャンセル料金は発生しており、5/4 までにキャンセルした場合は 12 万円弱、8 月末の場合は 18 万円弱となり、その差額は 6 万円程度である。
- ・ 従来は現地支払いのみであった参加費について、オンライン開催であればウェブ決済システムを導入する必要がある。
- ・ オンライン開催の場合にはそのシステム関連の設備投資のため、参加費は例年よりも値上げをしなければならないかもしれない。
- ・ オンライン開催に向けての検討、特に学生発表賞やアウトリーチイベント準備の観点からもオンライン開催とするのであれば、早めに方針を決定し準備を進めるのが得策である。また合わせて会員への周知も早い方がよい。
- ・ 仮に 8 月末に現地開催を決断したとしても、開催までの 3 ヶ月間で状況が変わる可能性は否定できない。
- ・ オンライン開催とする場合には、発表資料のアップロードについては著作権の問題が発生する可能性があるため、公開方法については慎重な検討が必要である。

以上の議論を経て、今年度の秋学会はオンライン開催に変更することを総会で諮ることとした。

- ・ 講演会等の開催日程は当初通りの 11 月 1～4 日を予定し検討を進めることとする。
- ・ アウトリーチに関してはオンラインでの出前授業などの可能性を前向きに検討することとする。なおアウトリーチの日程は予定通り 10 月 31 日の開催が良いとの意見が出されたが、事情によっては変更の可能性も含めて柔軟に考えることとする。
- ・ 秋学会のオンライン開催に向けて、秋学会オンライン開催 TF を設立し詳細検討を進めることとする。TF メンバーは運営委員会から秋学会担当、学生発表賞担当、新投稿システム TF に加えてウェブ技術に詳しい有志会員として銭谷会員・畠山会員に協力を依頼する。

（第 30 期運営委員・庶務・天野孝伸）

第 30 期第 6 回運営委員会報告

日時：2020 年 5 月 25 日（月）17:00-21:00

場所：Zoom

出席（総数 18 名、定足数 11 名）：大村善治（会長）、山本衛（副会長）、浅村和史、阿部修司、天野孝伸、臼井洋一、海老原祐輔、大矢浩代、加藤雄人、坂中伸也、佐藤光輝、津川卓也、橋本久美子、松島政貴、三好由純、山本裕二、行松彰、吉村令慧

議事

01. 協賛・共催関係（庶務）

メール審議で承認済みの以下の協賛 1 件について報告があった。

協賛

4th Asia-Pacific Conference on Plasma Physics (AAPPS-DPP2020)

開催日時：2020 年 10 月 26 日～31 日

開催場所：オンライン

主催：Association of Asia Pacific Physical Societies, Division of Plasma Physics

共催として既に承認されている 2022 年開催予定の EMIW2022 (The 26th Electromagnetic Induction Workshop) が、新型コロナウイルス

の影響によって2024年に延期となったことが報告された。

02. 入退会審査（庶務）

メール審議により承認済みの退会者4名が報告された。

03. 会計（会計）

以下の通り報告があった。

- ・ 長期未納者への対応
長期未納者（6名）への連絡状況が報告された。
- ・ 2020年度会費の徴収
PACより会費の納付依頼済みである。
- ・ 2019年度決算について
5月22日に事務局から決算（案）を受領。
4.8万円程度の黒字となっている。これからチェックを行い、8月末頃までにオンラインで会計監査を行う予定である。（会計監査委員：小田啓邦会員、小嶋浩嗣会員）
- ・ 西田基金
西田会員より今年度も100万円の寄付を頂けるとの連絡を受領している。

04. 助成関係（庶務）

以下の通り報告があった。

- ・ 2019年度公募の助成についてのまとめ。
- ・ 2020年度第1回の外国人招聘・若手派遣には応募がなかった。
- ・ 今後の公募の予定については、新型コロナウイルスの影響による会議の延期・キャンセルなどの可能性を踏まえて適宜対応をする予定。

05. 学会賞について（総務）

- ・ 推薦状況および結果報告
各賞への推薦状況および結果が報告された。笠原慧会員と木村智樹会員が令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞した。
- ・ 推薦受付中
井上學術賞の推薦を受付中である。（7月10日学会締切）

06. 秋学会関係（秋学会担当）

1件の特別セッションへの提案を承認した。

「論文が書ける研究データ管理・出版・引用：データの新しい役割を見据えて」（能勢正仁・村山泰啓・中村卓司・田中良昌・堀智昭）
秋学会に向けた今後のスケジュールについて確認するとともに、オンライン開催の場合の検討状況について報告があった。

- ・ 大会参加費は新投稿システムと連動可能な参加登録システムの利用を想定。

- ・ 学生会員については投稿時に会員登録に必要な情報を入力してもらい、メールベースで運営委員会の承認を経た後にオンラインにて参加費支払いをしてもらう。
- ・ 企業展示ブースについては通常通りブース代を支払ってもらう形は難しい。
- ・ プレスリリースについては通常通り実施可能。
- ・ 懇親会開催の是非については要検討。
- ・ 新投稿システムは投稿開始に向けて作り込みを始めている。ある程度の形になった後に運営委員でチェックをする。

また、以下の方向性について確認した。

- ・ 開催日程は11月1-4日のままで変更はしない。
- ・ 講演形式はZoomによる口頭発表に一本化する。学生発表賞の審査の公平化などを図ることが出来る。パラレル開催となるセッションの見逃しなどに対応するため、全ての発表は録画し対象を限定して公開することを検討する。
- ・ Zoom pro 500人/ホスト（月額2000円）x会場分（例年通りであれば4会場）が必要。
- ・ 講演の録画および録画した動画のアップロード先について
 - 講演を録画し動画をアップロードして公開する。
 - Vimeo Business（60,000円5TB）の年間契約をする。
 - 公開期間を1ヶ月程度に限定する。
 - 公開範囲は会員全員+非会員の参加者とする。
 - 公開方法はドメイン制限をする関係上PACの会員ページなどのウェブに動画を埋め込む形を考える。（PACを使う場合は非会員向けに専用IDを発行する必要がある。）
 - ビデオの録画および公開に承諾しないと投稿できないような仕組みとする必要がある。
 - 動画の2次配布は不可とする。
 - 個人情報取り扱いに関する内規の改訂について総務・庶務・PACで検討する。

・ 投稿規定について

「筆頭著者1名につき、レギュラーセッション全体を通じて1件、特別セッションで1件の投稿が可能。招待講演は、発表を申し込んでいないセッションで1件のみ

受けることが可能。」とする。これはポスター発表がないと考えれば現状の規約と齟齬がない。

- 参加費について
 - 参加費は 3000 円で一律とする。(ただし非会員の招待講演者からは参加費を徴収しない。)
 - 通常であれば聴講のみの場合は、学部生は無料、大学院生は参加費が必要となるが、今回オンライン開催の場合どうすべきかは要検討である。
 - なるべく内規に沿った形とし、Zoom への参加は参加登録システムを経由してもらう方向でタスクフォースにて検討する。
- 秋学会のウェブページは運営委員のウェブ担当にて用意する。

07. アウトリーチ活動 (アウトリーチ)

以下の通り報告があった。

- 秋学会のアウトリーチイベント開催について
 - 科研費は不採択であった。次回の申請準備を進めている。
 - アウトリーチイベント開催の是非・方法についてアウトリーチ部会の主要メンバーで協議した。
 - 秋学会がオンライン開催となる場合の開催は難しく、中止の方向で考えざるを得ない。
 - 秋学会と連動した一般向けの講演会の企画は考えられるが、魅力的なコンテンツや集客の広報戦略がなければ成功は難しいとの懸念がある。
- 秋学会プレスリリース
 - 秋学会がオンライン開催となる場合は、オンライン化に伴い開催地や現地 LOC からの同時プレスリリースは行わないが、この点を除けば例年同様に実施可能と見込まれる。
- 第 28 回衛星設計コンテスト
 - 今年度の体制は以下の通り
実行委員：大村会長、行松運営委員、企画委員：田所会員 (3 年目)、審査委員：町田シニア会員 (3 年目)、(※ 実行委員長：当学会小山シニア会員 (2018/3 就任、任期最大 5 年))
 - 参加登録受付を 4 月 1 日に開始、新型コロナウイルスの影響で、締切が 5 月 15 日から 5 月 31 日に延長されている。
 - 今後の日程や最終審査会の開催につ

いての方針は今後議論する予定である。

08. 男女共同参画関係について

- 男女共同参画学協会連絡会 (学協会連絡会) 2020 年 5 月 9 日 (金) に Zoom で開催された第 18 期第 2 回運営委員会について以下の通り報告があった。
 - 2019 年に分担金が値上げされたが、今後のさらなる分担金の値上げを懸念し、今後の収支予測について事前に質問状を送付した。
 - 2023 年までの収支予測の説明があり、毎年黒字となる見込み。
- 2020 年度女子中高生夏の学校 (2020 年 8 月 8-10 日)
新型コロナウイルスの影響により現地開催は中止となった。現地開催の代わりに、学生団体がオンラインで学会の紹介などを検討している。
- ダイバーシティ推進ワーキンググループ (WG) 内規の制定について
 - 会員には 5 月 28 日 (木) の総会にて周知する。
 - 第一期委員は、新 WG 設立準備 TF 委員 + 会員から推薦を受け付ける (自薦・他薦)。
 - 第一期委員の推薦受付期間は 5 月 28 日 ~ 6 月 30 日
 - 第一期委員の任期: 2020 年 8-9 月第 7 回運営委員会承認後 ~ 2022 年 3 月 31 日
 - 発足日: 2020 年 8-9 月第 7 回運営委員会の承認で決定

審議の結果、WG 内規を承認した。

09. EPS 関係 (雑誌)

EPS 誌関連について以下の通り報告があった。

- 国際会議の開催がオンラインになっているため、代替の広報案について検討中。
- APC の一部還元 (約 460 万円) を受領した。想定していたよりも早く単年度収支黒字を達成できる見込み。
- 7 月に出版社からプロモーション経費として 2300 ユーロが振り込まれる予定。
- 2019 年の IF は 2018 年 (2.736) よりも下がる見込み。

10. Web 関係 (広報 Web)

- レンタルサーバドメイン更新費を振り込み済み
- Web サイトの更新・修正をしている。
 - 第 147 回総会開催案内ページ

- 掲示板の掲載削除要望へ対応した (sgepsbb2003, 2004, 2005)
11. メーリングリスト関係 (広報 ML)
- ・ メーリングリスト管理作業について報告があった。
現状のシステムではメーリングリスト数の上限は 10 で、現在既に上限に達している。
 - ・ sgepsbb・sgepsall メーリングリストの運用方針について
以下のような方針で検討し次回の運営委員会にあらためて運用の仕方を審議する
 - メーリングリスト数はこのままとする。
 - 投稿方針について文書化する。
 - ログについてはアクセス制限 (パスワードなど) をつけた上で公開する。
12. 会報関係 (広報会報)
- ・ 会報 238 号を 4 月 23 日に発行した。
 - ・ 会報 239 号の発行スケジュールおよび目次の案を承認した。
13. 連合対応 (連合対応)
- 以下の通り報告があった。
- ・ パブリックセッション 0-02
「変化する気候下での強風災害にどう取り組むか」 (松本淳・高橋幸弘・和田章) 1 年延期する
 - ・ 国際セッション U-16
「OC: Research Advances in Recent Disaster Studies Using Remote Sensing and Computational Methodologies」 (松本淳・Guido Cervone) リモートで開催の予定。
 - ・ JpGU-AGU 2020: Virtual においてユニオンセッションの枠に「緊急・スペシャル企画: COVID-19&GeoHealth」が企画されている。
 - ・ JpGU の環境災害対応委員会は Zoom にて開催の予定。
 - ・ 以下のシンポジウムが開催予定 (防災学術連携体ニューズレター 29 号より)
 - 第 10 回防災学術連携シンポジウム・日本学術会議公開シンポジウムの開催
主催: 日本学術会議 防災減災学術連携委員会・防災学術連携体 (58 学会)
日時: 2020 年 10 月 3 日-4 日
テーマ: あなたのまちの安全と防災の備えを知ろうー学術界からの発信ー (仮案)
- 日本学術会議主催学術フォーラム・第 11 回防災学術連携シンポジウム開催
「東日本大震災からの十年とこれから」~58 学会 防災学術連携体の活動~
主催: 日本学術会議 防災減災学術連携委員会・防災学術連携体 (58 学会)
日時: 2021 年 1 月 7 日 (木) または 14 日 (木) 10:00-17:00
場所: 東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂、または建築会館ホール
14. 将来構想検討 WG
- ・ 学会将来構想文書の改訂について
将来構想検討 WG での改訂作業中。さらなる改訂を経て 7 月初めを目途に学会 Web ページで公表予定。
 - ・ 宇宙科学基本計画 (案) へのパブリックコメントについて
 - 内閣府から発出されていた宇宙科学基本計画 (案) へのパブリックコメントに、会員からの意見を集約しコメント作成の上、会長名で提出した。
 - パブリックコメント全文をウェブページ (活動の記録) および形で会報に掲載することとする。
 - ・ 今後の WG 会合および分科会連絡会合について
 - 今後の WG 会合について
 - ☆ SGEPS 秋学会期間前にオンラインでのミーティングについて実施を予定。
 - ☆ 分科会連絡会合と将来構想検討 WG
 - 分科会連絡会の案
 - ☆ 将来構想検討 WG (既設置) のメンバーは分科会代表者およびその他のメンバー (分科会ではカバーできない領域) で SGEPS 全体を網羅する構成
 - ☆ メンバーは各分科会から推薦された代表者 1-2 名で構成する
 - ☆ 各分科会での活動について情報交換および必要に応じて提言などをする
 - ☆ 今後メンバーの方からのご提案も受けて検討していく
15. その他
- ・ 第 147 回総会の議事について
以下の議事の提案について確認した。
 - 第 148 回総会・講演会 (2020 年度秋学会) のオンライン開催について

- ・ 選挙日程について
選挙日程について庶務と PAC で検討し次回運営委員会で日程を提案する。
- ・ 評議員選挙について
前回の運営委員会で承認された選挙の規約および内規の改定案について評議員会に諮り、総会で提案する。
- ・ オンライン総会の実施手順について
 - 当日 11:00 までに委任状を庶務から sgeadm 宛てに送信する。
 - 参加者には挙手機能で議決の意思表示をしていただく。
 - 運営委員はパネリストとなり挙手ができないため、議決の際にはあらかじめ議長に委任する。
 - 委任状の数+運営委員の数+挙手の数を確認して議決を行う。
 - 前日に庶務からもう一度リマインダーを送る
- ・ 次回運営委員会の候補日を選定した
 - 第1候補：9月15日
 - 第2候補：9月16日
 - オンライン秋学会に関して議論が必要になった際には臨時の運営委員会を開催する

(第30期運営委員・庶務・天野孝伸)

評議員定数の改定案について

評議員会は本学会賞の審査等を担任しており、評議員の専門領域に極端な偏りが生じることは望ましくありません。不均衡がある場合にはこれを是正し、公正な審査を担保するため、運営委員会では以下を骨子とする改定案を作成しました。

- ・ 定員を「10名」から「12名まで」に改める
- ・ 新会長は新旧評議員と協議の上「2名まで」選出する

本改定案につきましてご意見がありましたら総務担当運営委員までお知らせください。頂いたご意見を参考にし、次回の秋期総会で改定案をお諮りします。

■地球電磁気・地球惑星圏学会規約

第8条 本学会に次の役員を置く。

(現行)

会長1名、副会長1名、評議員10名、運営委員16名、会計監査委員2名

(改定案)

会長1名、副会長1名、評議員 12名まで、運営委員16名、会計監査委員2名

■地球電磁気・地球惑星圏学会内規

第2条 役員の選挙は次の通りとする。

(現行)

2. 評議員の選出は9名連記無記名投票を行い、得票数の順位に従って上位9名を上位とする。なお得票同数者がある場合には年長者を上位とする。評議員については、選挙で選ばれても辞退することができる。なお評議員経験者については、事前に辞退することを会長に申し出ることができる。その氏名は選挙に先立ち全会員に通知する。

(改定案)

2. (同上) 新会長は新旧評議員と協議の上、さらに2名まで選出することができる。

なお、会長は無投票で次期評議員になることが規約第9条で定められています。

(第30期運営委員・総務・海老原祐輔)

宇宙科学基本法(案)へのパブリックコメントについて

宇宙科学基本計画(案)についてのパブリックコメントの募集が、2020年4月27日を締め切りとして、内閣府から発出されました。当学会の会員の多くにも関係する案件であることから、会員のみなさまからご意見をいただきました後、学会からのパブリックコメントとして以下のようにとりまとめ、会長名で提出いたしました。

(第30期運営委員・将来構想担当・

三好由純・臼井洋一)

宇宙科学基本法(案)へのパブリックコメント

地球電磁気・地球惑星圏学会会長 大村善治

地球電磁気・地球惑星圏学会は、地球電磁気学および地球惑星圏科学に関連する学術の発展に寄

与することを目的とした国内外の研究者からなる学会で、多くの会員が宇宙科学に従事しています。宇宙基本計画（案）について、当学会において、意見をとりまとめたコメントをお送りいたします。

■前文：

基本方針制定の背景に、新たな知を想像し、国際的なプレゼンスを持って宇宙の平和利用に貢献する宇宙科学についてもその意義が記載されることを希望します。

■p18: i 宇宙科学・探査：

- ・ 従来の基本計画と同様に、機体数を示した上で計画が明記されていることを評価いたします。国際的には衛星の高機能化が進み、規模が多用化していますので、一定の枠内において、規模・機数について柔軟な展開も可能とし、世界最先端の成果創出を可能とする運用を期待します。また、海外主導のミッションへの柔軟な参加と、わが国主導のミッションによる最先端の成果獲得とのバランスをもった推進体制がとられることを期待します。以上の施策に向けて、必要な予算措置が適切になされることを希望します。
- ・ チャレンジな宇宙科学ミッションを支えるフロントローディングや、JAXA と大学等との人事交流などによる人材育成などが記載されており、この方向に沿って施策が実施されることを期待します。

■p19: ii 国際宇宙探査への参画：

- ・ わが国では「かぐや」をはじめとした月探査の実績があり、JAXA においても、国際宇宙探査参加における理学・工学的意義の検討が進んでいます。このような実績や取組みをふまえ、国際宇宙探査における宇宙科学の意義について、いっそうの記述を期待いたします。

■p31: viii 宇宙環境のモニタリング（宇宙天気）

- ・ 宇宙天気予報・宇宙状況把握については、地球周辺の宇宙空間や太陽を連続して観測することが重要であること、現象の理解と予測には基礎的な研究の推進が不可欠であるこ

とから、JAXA の科学衛星が行ってきた最先端の太陽やジオスペースに関する観測も継続していくことが重要と思います。さらに、人間の活動領域が地球周辺から、月や月以遠へと広がっており、宇宙天気予報・宇宙状況把握の領域拡大が必須となります。今後、総務省、JAXA、大学研究者との連携によって宇宙天気予報・状況把握の範囲を拡大し、体制を整備していくことが必要と思われます。

第 147 回地球電磁気・地球惑星圏 学会 評議員会報告

日時：令和 2 年 5 月 26 日（火） 18:30-20:30

会場：Zoom

出席者：〈会長・副会長〉 大村善治、山本衛
〈評議員〉 家森俊彦、石井守、小原隆博、塩川和夫、中村正人、山崎俊嗣、渡部重人、歌田久司、津田敏隆、中村卓司

報告者

笠原禎也（大林奨励賞候補者推薦委員会委員長）
海老原祐輔（運営委員会総務担当）

1. 大林奨励賞審査

大林奨励賞候補者推薦委員会（委員長：笠原禎也）から推薦の経緯と候補者について報告があった。議論の結果、村上豪会員、南拓人会員、岩井一正会員の 3 名に授与することを決定した。

2. SGEPS 論文賞審査

SGEPS 論文賞選考委員会（委員長：山本衛）から候補論文について報告があった。議論の結果、笠原 慧会員が責任著者の 2018 年に EPS 誌に出版された論文“Medium-energy particle experiments—electron analyzer (MEP-e) for the exploration of energization and radiation in geospace (ERG) mission”に授与することを決定した。

3. 運営委員会報告

第 30 期臨時（2020 年 2 月 18 日）、第 30 期第 5 回（2020 年 3 月 31 日）、第 30 期臨時（2020 年 4 月 30 日）、第 30 期第 6 回（2020

年 5 月 25 日) 運営委員会議事録に基づき、総務担当運営委員の海老原会員が説明を行った。宇宙科学基本計画 (案) に対するパブリックコメント、総会のオンライン開催、秋学会講演会のオンライン開催案、評議員の定数改定案について質疑応答と助言があった。

4. その他

チバニアンについてのコメントを発出したこと、白鳳丸の存続について要望書を発出したことに対し、山崎評議員から御礼の言葉があった。

新型コロナウイルスの影響で研究活動が停滞している。学会としてできることについて意見を交換した。特にフィールド研究への影響は大きく、このまま放置するとデータ消失のおそれがあるなどの深刻な状況が紹介された。会員間で情報交換し、問題を共有するための機会を秋学会に設けてはどうかと提案があった。

国際研究集会 (オンライン) Global Collaborations on Data beyond Disciplines 開催の御知らせ

渡邊堯、金尾政紀、門倉昭、家森俊彦、村山泰啓

日本学術会議情報学委員会・WDS¹ 小委員会では、2011年にWDS国際プログラムオフィス(WDS-IPO²)が情報科学研究所(NICT)に設置されて以来、ほぼ隔年にWDS関連の国際研究集会を開催して来ました。このたびNICTによるWDS-IPOのホスト事業が2020年度末をもって終了することを受けて、国際的な研究データ関連活動への貢献の継続性確保のため、情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設(ROIS-DS)とNICTとを主な主催者として、表記の研究集会を2020年9月23-25日にオンラインで開催します。以下のスケジュールでは、日本時間の日中は主としてアジア・オセアニア地域を主題にしたセッションとし、全世界を対象としたセッションを夜間に設

定する予定です。なお、すべてのセッションへの参加制限はありません。

| 日時(JST) | セッション |
|-------------|---|
| 9月23日(水) | |
| 14:00-17:00 | Opening Addresses, Keynote Talks, 10 Years Event of WDS-IPO |
| 21:00-24:00 | WDS Forum 2020 |
| 9月24日(木) | |
| 10:00-12:00 | Regional Activities on Data in the Asia-Oceania Area |
| 14:00-17:00 | WDS-ORCID Strategic Workshop |
| 21:00-24:00 | Sharing of the COVID-19 Data |
| 9月25日(金) | |
| 10:00-12:00 | Forum of Early Career Data Scientists in the Asia-Oceania Area |
| 14:00-17:00 | Promotion of Multi-Disciplinary Data Analysis Conclusive Addresses |

WDS Forum 2020 は WDS の活動状況や今後の計画に関して、WDS メンバーや WDS に関心を持つ研究者と情報を共有することが目的であり、WDS 科学委員会 (WDS-SC) によってほぼ隔年に開催されています。WDS の活動に直接触れる得難い機会になりますので、ぜひご参加ください。Regional Activities on Data in the Asia-Oceania Area では、WDS 小委員会主導によって 2017 年 (京都) と 2020 年 (北京) の 2 回開催した、WDS Asia-Oceania Conference の流れを受けて、国際学術会議のアジア・太平洋地域オフィスとの連携により、この地域における WDS 関連活動の強化に向けた議論を行います。WDS-ORCID³ Strategic Workshop では、再利用を含めた研究データ利活用の促進に不可欠な、データを提供した研究者の業績や所属機関に関する情報とデータとの恒久的な連結などに関する活動方針が議論されます。Sharing of the COVID-19 Data では、今回の世界的な新型コロナウイルスの流行に関するデータの共有に向けて、各国での取り組みや、WDS や RDA などの国際データ組織間の連携などが主なテーマとなります。Forum of Early Career Data Scientists in the Asia-Oceania Area では、WDS Early Career Researchers and Scientists (ECR) Network の活動の一環として、アジア・オセアニア地域におけるデータ関連の若手研究者の連携を深めるため、各国における若手研究者が置かれている環境やその改善に向けた活動について、情報交換とフォーラム形式の議論が行われます。ま

た、Promotion of Multi-Disciplinary Data Analysis では、自然科学分野と人文・社会科学分野との連携などに必要な、多分野データ解析の事例報告をもとに、分野横断型のデータ利活用に必要な態勢の構築に向けた活動について議論を行います。ぜひ皆様の御投稿と御参加を御願います。なお、当研究会への参加の方法や、投稿・参加登録などに関する情報は、https://ds.rois.ac.jp/article/dsws_2020/で公開されています。

¹World Data System

²International Programme Office

³Open Research and Contributor Identifier

The 26th Electromagnetic Induction Workshop の延期について

馬場聖至

Electromagnetic Induction Workshop (EMIW) は、International Association of Geomagnetism and Aeronomy (IAGA)の Division VI: Electromagnetic Induction in the Earth and Planetary Bodies の主催で、2年に一度開催される国際ワークショップです。EMIWでは、電磁気学的な観測手法を用いた地球の地殻・マントルおよび惑星内部の構造探査に関わる様々な研究成果が発表されます。SGEPSSからは主に Conductivity Anomaly 研究会分科会に所属する会員が毎回多数参加していますが、近年は Geomagnetically Induced Current (GIC)が引き起こすハザード予測、人工衛星による磁場観測、地磁気静穏日変化や潮汐起源の信号を用いた構造探査に関する発表もあり、超高層物理や磁気圏を研究する会員にも関心を持っていただけたワークショップとなっています。

さて、EMIWの第26回大会は、SGEPSSも共催団体となり、2022年9月に別府市で開催される予定であることを、会報237号等でお知らせしましたが、このたび本大会の開催が2024年に延期となりましたので、改めてお知らせいたします。今般の世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020年9月にトルコで開催を予定しておりました第25回大会が2年延期されたため、

第26回大会も順延となった次第です。これに伴いまして、我々第26回大会LOCも、呼称をEMIW2022LOCからEMIW2024LOCへと改め、LOCホームページ、LOC事務局メールアドレス、大会ロゴを以下のように変更いたしました。

EMIW2024LOCホームページ：

<https://www.emiw.org/emiw2024>

EMIW2024LOC事務局メールアドレス：

emiw2024@gmail.com



EMIW2024のロゴマーク

本大会の開催は4年後となりましたので、加わった時間を有効に活用して、大会の開催準備を進めてまいり所存です。これまでに後援団体として名義使用を認めていただいていた国内の関連する大学、研究機関、学会、自治体等には、名義使用期間を2024年まで延長していただきました。当面は引き続き、本大会の周知に注力してまいります。会員の皆様におかれましても、引き続き、EMIW第26回大会(EMIW2024)へのご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

第148回総会・講演会(2020年秋学会) 関連情報

第148回SGEPSS総会および講演会は、2020年11月1日(日)から11月4日(水)に開催されます。今回の講演会は、講演形式をZoom meetingによるリアルタイム口頭発表に一本化し、オンラインによる開催となります。また、会期3日目の11月3日(火)の午後にはZoom webinar形式による

田中館賞受賞講演会・特別講演会・総会が予定されております。皆様のご投稿、ご参加をお待ちしております。

【セッション概要】

＝特別セッション＝

◆S001：論文が書ける研究データ管理・出版・引用：データの新しい役割を見据えて（Research data management, publication, and citation for writing research papers: New roles of data）[能勢正仁（名古屋大学宇宙地球環境研究所）、村山泰啓（情報通信研究機構）、中村卓司（国立極地研究所）、田中良昌（国立極地研究所）、堀智昭（名古屋大学）]

最近になって、研究者は論文出版時のデータ保存や識別子等について適切な対応を迫られるようになってきた。これは、研究資金配分機関や学術出版社等のデータ取り扱いポリシーが急激に変化してきたことが背景にあるが、もっと根底的には、科学研究における「データ」は「知の源泉」（内閣府、統合イノベーション戦略、2018）であり、国際学会や関係国政府当局において、その整備・利活用が重視されるとともに、科学的発見の根拠、また更に深い知を生むため次世代へ引継ぐべき研究資産、と再認識されるようになったためである。また、2012年の研究評価に関するサンフランシスコ宣言や2017年のG7科学大臣会合合意においても、データを論文とならぶ学術業績として認める動きが明文化されている。こうした背景の下、このセッションでは、伝統的にさまざまなデータに立脚してきた当学会研究分野において、研究者を取り巻く現状把握とその対処方法、将来の研究データ管理や公開・共有について議論する。論文出版時のデータ管理や出版・引用、観測・シミュレーションといった手法ごとの課題、データ管理ポリシーや予算獲得時のデータ管理計画策定など、広い課題についての投稿を歓迎する。

＝レギュラーセッション＝

◆R003：地球・惑星内部電磁気学（電気伝導度、地殻活動電磁気学）（Solid Earth

Electromagnetism）[浅利晴紀（気象庁地磁気観測所）、多田訓子（海洋研究開発機構）]

地球・惑星内部電磁気学に関する、観測、実験、理論、シミュレーションなどに基づいた研究の発表と議論を行う。地下比抵抗構造、磁気異常、自然電位異常、地震活動域・火山地域・海洋域での地殻活動・海流等による電磁場の励起に関連する諸現象、観測技術・装置、室内実験、データ解析手法、解析的・数値的計算手法などがこのセッションで扱われる具体的な内容である。特に学生・若手研究者の意欲的な研究発表・提案を歓迎する。

◆R004：地磁気・古地磁気・岩石磁気（Geomagnetism /Paleomagnetism/Rock Magnetism）[藤井昌和（国立極地研究所）、臼井洋一（海洋研究開発機構）、北原優（岡山理科大学）]

本セッションでは、現在および過去の地球・惑星磁場、岩石磁気・古地磁気とそれらの応用に関する研究の発表と議論のための場を提供する。地球・惑星磁場の観測・解析、自然試料・考古遺物などによる過去の地球・惑星磁場の変動・変遷と起源、数値実験による地球・惑星磁場の発生・変動メカニズムの解明、鉱物・岩石・隕石などの磁気特性の測定と理論、地球表層および掘削試料の磁気的情報に基づく地球の気候変動やテクトニクス、地球・惑星の磁気異常観測と地殻磁化構造モデル、これらを実現するために必要な測定技術・解析手法の開発などについての研究発表を歓迎する。

◆R005：大気圏・電離圏（Atmosphere/Ionosphere）[津田卓雄（電気通信大学）、西岡未知（情報通信研究機構）]

本セッションは大気圏と電離圏の合同セッションである。対象とする領域は、対流圏から電離圏までを含む広い領域であり、これらの領域における諸現象ならびにその物理・化学過程を解明するための観測・データ解析・理論・シミュレーション等の幅広い発表を期待する。さらに、中性大気と電離大気との相互作用、地圏や磁気圏などとの圏間結合、緯

度間、半球間をつなぐ議論に加え、新しい観測技術、研究手法、将来計画等の関連する話題についても歓迎する。

◆R006：磁気圏 (Magnetosphere) [桂華邦裕 (東京大学大学院理学系研究科)、中野慎也 (統計数理研究所)、西山尚典 (国立極地研究所)、小路真史 (名古屋大学宇宙地球環境研究所)]

磁気圏の構造と変動、オーロラ現象を含む電離圏-磁気圏結合、太陽風-磁気圏結合、磁気嵐やサブストームに関連した現象などを対象として、人工衛星や地上からの観測、データ解析、理論、シミュレーションなどを用いた研究発表を募集する。また、関連する技術開発、将来ミッションについての発表も歓迎する。

◆R007：太陽圏 (Heliosphere) [成行泰裕 (富山大学学術研究部教育学系)、岩井一正 (名古屋大学宇宙地球環境研究所)、西野真木 (JAXA 宇宙科学研究所)、坪内健 (電気通信大学)]

太陽と太陽風によって形作られる太陽圏中に生起する様々な現象についての研究発表を募集する。太陽風の加速過程を始め、ダイナミックな太陽活動に起因するコロナ質量放出 (CME) や惑星間空間衝撃波などに対する太陽圏の応答、惑星間空間の磁場や太陽風プラズマの特性、ヘリオポーズ・終端衝撃波等の太陽圏境界構造、それを取り巻く星間物質 (LISM) の研究、宇宙線などの高エネルギー粒子の物理についての研究報告を幅広く募集する。惑星磁気圏活動へのエネルギー供給源としての太陽風や、そこに生起する波動現象等も含め、幅広いトピックについての発表を歓迎する。

◆R008：宇宙プラズマ理論・シミュレーション (Space Plasma Theory/Simulation) [梅田隆行 (名古屋大学宇宙地球環境研究所)、三宅洋平 (神戸大学計算科学教育センター)、天野孝伸 (東京大学大学院理学系研究科)、成行泰裕 (富山大学学術研究部教育学系)、中村匡 (福井県立大学)]

本セッションでは、磁気圏・太陽圏・電離圏・惑星圏のみならず、広く宇宙・天体のプラズマ環境に生起する様々な物理現象に関す

る理論・シミュレーション研究の議論の場を提供する。宇宙プラズマに関する新しい理論解析手法、新しい計算機シミュレーション手法・計算科学的技術、プロジェクトなどに関するトピック及び、宇宙プラズマ現象に関連した観測データの紹介などの講演を歓迎する。また、宇宙環境計測・利用や宇宙飛翔体環境に関連する理工学的な理論・計算機シミュレーション研究及びプラズマ実験についても扱う。

◆R009：惑星圏・小天体 (Planets and Small Bodies) [今村剛 (東京大学大学院新領域創成科学研究科)、西野真木 (JAXA 宇宙科学研究所)、土屋史紀 (東北大学大学院理学研究科)、関華奈子 (東京大学大学院理学系研究科)、臼井英之 (神戸大学大学院システム情報学研究科)]

惑星や衛星、小天体の、周辺空間・大気・地表・天体内部に関する分野横断的な研究発表の場を提供する。宇宙機の周辺環境に関する研究発表も歓迎する。衛星観測、地上観測、観測装置開発、理論・シミュレーションに関する講演を広く募集する。具体的なテーマとしては、太陽風-電磁気圏相互作用、惑星気象、大気化学、大気散逸・進化、宇宙風化、磁気異常、ダスト、ダイナモなどを扱う。ひさき・あかつき・MAVEN・TGO・BepiColombo・JUICE・MMX など飛翔体による探査の進捗に関する講演や、系外惑星など将来の惑星圏研究を見据えた萌芽的な研究も歓迎する。

◆R010：宇宙天気・宇宙気候～観測、シミュレーション、その融合 (Space Weather/Climate) [塩田大幸 (情報通信研究機構電磁波研究所)、池田昭大 (鹿児島工業高等専門学校)、齊藤慎司 (情報通信研究機構電磁波研究所)、新堀淳樹 (名古屋大学宇宙地球環境研究所)]

太陽から地球圏・太陽圏に至る幅広い領域 (太陽地球圏) は、太陽から惑星間空間、地球の磁気圏・電離圏・地球圏 (大気・海洋・雪氷・生物圏) からなる複合システムであり、太陽地球圏における短期変動 (宇宙天気) および長期変動 (宇宙気候) の解明には各領域をまたぐ分野横断型研究が必要となる。本

セッションでは、太陽地球圏変動の概況把握や予測・予報に繋がる基礎的研究、観測・解析手法、予報システム、モデル提案の萌芽的研究・開発進捗だけでなく、太陽黒点、地磁気、宇宙線、歴史的文献のような多種多様な長期データの活用、気象・気候データとの融合など、分野横断型研究発表を募集する。また、地球周辺の宇宙環境変動に伴う人工衛星やスペースデブリの軌道変動、地磁気誘導電流、通信、衛星測位への影響など、宇宙天気による乱の社会的影響の観点からの発表も受け入れる。宇宙利用の拡大に伴い、宇宙天気の社会的重要性は増しており、今後を担う学生・若手研究者の意欲的な研究発表や提案を歓迎する。

【講演申し込み方法】

個人 ID を用いたウェブからの電子投稿となります。今回より新システムに移行しており、インターフェースなど使い勝手が大幅に変更されている部分が多くあります。投稿締め切りは、コロナ感染拡大に伴う今般の特殊事情を鑑み、例外的に当初予定から変更して 2020 年 7 月 28 日(火) 正午(厳守)としております。多くのご投稿をお待ちしております。

[1] 投稿規定

- * 筆頭著者 1 名につき、レギュラーセッション全体を通じて 1 件、特別セッションで 1 件の口頭発表の講演申し込みを受付けます。
- * 招待講演は、上記とは別枠で、発表を申し込んでいないセッションで 1 件のみ受けることが可能です。
- * 非会員のみによる発表は受付けません(但し、招待講演は別枠です)。
- * 学生会員制度により、秋学会へ参加・発表する学生は学生会員(2021 年 8 月まで有効)となることができます。学生会員の参加費は 3,000 円で学生会員費を兼ねます。後日の参加登録の際にお支払いください。また、学生会員による発表はすべて学生発表賞の審査対象となります。

[2] 投稿方法

予稿投稿の受付は、6 月 24 日(水)より開始しています。本学会ホームページ

(<http://www.sgepss.org/>)の「総会・講演会」ご案内部分にあるリンク先から電子投稿をお願いいたします。

- ・秋学会の投稿システムでは、地球電磁気・地球惑星圏学会独自の個人 ID 番号を使用します。日本地球惑星科学連合(JpGU)の ID では投稿できません。
- ・独自の個人 ID 番号を未取得の方は、最初に「個人 ID 取得」へお進みください。
- ・共著者の方の分の ID 登録は任意です。登録がある場合は、予稿投稿画面の「検索」をクリックすることで検索が可能です。検索結果に表示されない場合は登録がありませんので、共著者の方の情報を手入力頂くか、上記の「個人 ID 取得」から入って共著者の方の情報を代理登録して ID を取得してください。

[3] 締め切り

予稿原稿の申込み締め切りは、2020 年 7 月 28 日(火) 正午(厳守)です(延長はございません)。FAX、電話、メール等による遅延の依頼も一切受け付けません。

[4] 投稿にあたっての確認事項

- ・全ての発表は“Zoom”によるリアルタイム講演で行われます。ご自身の環境で“Zoom”による接続と参加が可能なることをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。
- ・今回の秋学会では、オンライン開催ならではの長所を活かし、会員による研究発表の相互普及と学術交流の強化を図り、また、学生発表賞(オーロラメダル)の公平かつ厳正な審査に活用するため、全ての講演を録画し、期間限定で本会会員と講演会参加登録者に限定して公開させて頂くことと致しました。公開方法については、講演会開催日までに改めて連絡させて頂く予定です。ご了解頂きますよう、お願い申し上げます。

【総会】

総会議題の申込は、9 月 10 日(木)迄に会長宛に書面でお願い致します。

総会で報告を行う方は 10 月 29 日(木)迄に総務担当運営委員までお知らせください。

【問い合わせ先】

学会運営：秋学会担当運営委員（山本裕二、阿部修司、大矢浩代（fm@sgepss.org））

総会：総務担当運営委員（海老原祐輔（ebihara@rish.kyoto-u.ac.jp））

尚、秋学会に関する現地情報は、秋学会 LOC のホームページをご覧ください。

【関連ホームページ】

投稿サイト

<https://secure101.jtbcom.co.jp/sgepss/>

LOC サイト

<http://www.sgepss.org/sgepss/fallmeeting/FM2020/LOC2020/>

運営委員会よりお知らせ

<http://www.sgepss.org/sgepss/fallmeeting/FM2020/>

助成公募

2020 年度宇宙科学奨励賞公募のご案内

公益財団法人 宇宙科学振興会

公益財団法人宇宙科学振興会では、宇宙科学分野で優れた研究業績を挙げ、将来の宇宙科学の発展に大きな役割を果たすことが期待される若い研究者を顕彰し、宇宙科学奨励賞を授与いたします。ここに 2020 年度の第 13 回宇宙科学奨励賞候補者のご推薦を募集いたします。推薦要綱の詳細は当財団のホームページに掲載しております（<http://www.spss.or.jp>）が、当奨励賞の概要は以下の通りです。皆様の周りで優れた業績を挙げ将来の活躍が期待される若手研究者をご存知の際には、是非ともご推薦いただきますようお願い申し上げます。

表彰の趣旨： 宇宙理学（飛翔体を用いた観測、探査、実験に関連する理学研究）分野及び宇宙工学分野で独創的な研究を行い、宇宙科学の進展に寄与する優れた研究業績をあげた若手研究者個人を顕彰する。

授与機関： 公益財団法人 宇宙科学振興会

候補者： 上記分野で優れた業績をあげた当該年度の 4 月 1 日現在 37 歳以下の若手研究者個人。候補者の推薦は他薦に限る。

業績の審査： 業績の審査は、推薦理由となる研究業績に関連して発表された論文に基づいて、当財団が設置する選考委員会において行う。

賞の内容： 授賞は原則として毎年宇宙理学関係 1 名、宇宙工学関係 1 名とする（ただし適格者のいない場合は受賞者なしとする場合がある）。受賞者には本賞（賞状と表彰楯）および副賞（賞金 30 万円）が贈られる。

推薦締切日： 2020 年 10 月 31 日（土）必着。

表彰式： 選考結果は 2021 年 1 月に推薦者と受賞者に通知するとともに、当財団ホームページにおいて発表する。その後 2021 年 3 月初旬に表彰式を行い、受賞者には受賞対象となった研究に関する講演をして頂く。

なお、推薦の手続きの詳細については財団のホームページ（<http://www.spss.or.jp>）をご覧ください。推薦書式をダウンロードして必要事項を記載の上、(1) 候補者の略歴、(2) 論文リスト、および (3) 推薦の対象となる論文の別刷等必要書類を添付の上、電子メールにてご提出下さい。

お問い合わせ先および推薦書送付先：

〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台 3-1-1

公益財団法人宇宙科学振興会 事務局

E-mail: admin@spss.or.jp

訃報

後藤由貴 会員（金沢大学）

2020 年 4 月 8 日 御逝去（享年 44 歳）

謹んでご冥福をお祈りいたします。

学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール

積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

| 賞・事業名 | 応募・推薦/問い合わせ先 | 締め切り |
|-----------------|------------------------|----------------|
| 長谷川・永田賞 | 会長 | 2月末日 |
| 田中館賞 | 会長 | 8月末日 |
| 大林奨励賞 | 大林奨励賞候補者推薦委員長 | 1月末日 |
| 学会特別表彰 | 会長 | 2月末日 |
| SGEPSS フロンティア賞 | SGEPSS フロンティア賞候補者推薦委員長 | 12月末日 |
| SGEPSS 論文賞 | 会長 | 1月末日 |
| 学生発表賞 (オーロラメダル) | 推薦なし/問い合わせは運営委員会 | |
| 国際学術交流若手派遣 | 運営委員会 | 5月、7月、10月、1月中旬 |
| 国際学術交流外国人招聘 | 運営委員会 | 若手派遣と同じ |
| 国際学術研究集会 | 運営委員会 | 1月 |

SGEPSS Calendar

| | |
|----------------|---|
| 20-11-01~11-04 | 第148回 SGEPSS総会および講演会 (オンライン) |
| 20-12-07~11 | AGU Fall Meeting (オンライン / San Francisco, USA) |
| 21-01-28~02-04 | 43 rd COSPAR Scientific Assembly (Sydney, Australia) |
| 21-04-25~30 | EGU General Assembly 2021 (Vienna, Austria) |
| 21-05-30~06-03 | JpGU Meeting (神奈川) |
| 21-08-01~06 | AOGS 2021 (Singapore) |
| 21-08-22~27 | IAGA-IASPEI 2021 Joint Scientific Assembly (Hyderabad, India) |
| 21-09-19~22 | AOGS-EGU Joint Conference on NatHazards (Yogyakarta, Indonesia) |

賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

(有)テラテクニカ(2口)

〒 208-0022

東京都武蔵村山市榎3丁目25番地1

tel. 042-516-9762

fax. 042-516-9763

URL <http://www.tierra.co.jp/>

三菱重工(株)(2口)

防衛・宇宙セグメント

〒 485-8561

愛知県小牧市東田中1200

tel. 0568-79-2113

URL <http://www.mhi.co.jp>

クローバテック(株)

〒 180-0006

東京都武蔵野市中町 3-27-26

tel. 0422-37-2477

fax. 0422-37-2478

URL <http://www.clovertech.co.jp/>

富士通(株)

〒 261-8588

千葉県美浜区中瀬 1-9-3

富士通(株)幕張システムラボラトリ

tel. 043-299-3246

fax. 043-299-3011

URL <http://jp.fujitsu.com/>

明星電気(株)宇宙防衛事業部

〒 372-8585

群馬県伊勢崎市長沼町 2223

tel. 0270-32-1113

fax. 0270-32-0988

URL <http://www.meisei.co.jp/>

カクタス・コミュニケーションズ(株)

〒 101-0061

東京都千代田区三崎町2-4-1

TUG-Iビル 4F

tel. 03-6261-2290

fax. 03-4496-4557

URL <https://www.editage.jp/>

日鉄鉱コンサルタント(株)

〒 108-0014

東京都港区芝 4 丁目 2-3 NMF 芝ビル 3F

tel. 03-6414-2766

fax. 03-6414-2772

URL <http://www.nmconsults.co.jp/>

Harris Geospatial 株式会社

東京オフィス

〒113-0033

東京都文京区本郷1-20-3 中山ビル 3F

tel. 03-6801-6147 / fax. 03-6801-6148

大阪オフィス

〒550-0001

大阪市西区土佐堀1-1-23

コウダイ肥後橋ビル 5F

tel. 06-6441-0019 / fax. 06-6441-0020

Email: sales_jp@exelisvis.co.jp

URL <https://www.harrisgeospatial.co.jp/>

次ページへ

賛助会員リスト

シュプリンガー・ジャパン(株)

〒105-6005

東京都港区虎ノ門4-3-1

城山トラストタワー5階

tel. 03-4533-8263(地球科学分野・直通)

fax. 03-4533-8081

URL <http://www.springer.com/>

論文翻訳ユレイタス

〒101-0021

東京都千代田区外神田 2-14-10

第2電波ビル 402A

tel. 03-3525-8001

fax. 03-3525-8002

URL <https://www.ulatus.jp/>

株式会社NTシステムデザイン

〒206-0803

東京都稲城市向陽台5-9-7-203

tel. 042-379-9813

fax. 042-379-9814

Email: info@nt-sys.jp

URL <http://www.nt-sys.jp/>

総合電磁気計測テクノロジー

磁力計

フラックスゲート
プロトン
オーバーハウザー
ポタシウム
インダクション

火山

衛星携帯データ転送
太陽電池システム
無線LAN

磁気試験

磁気モーメント計測システム
磁気シールド

海洋

海底電位磁力計(OBEM)
海底電磁探査装置
曳航式オーバーハウザー

宇宙

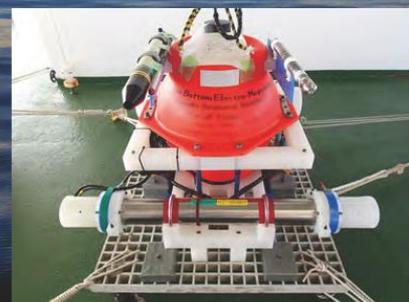
磁気トルカー
小型衛星地磁気姿勢計
太陽センサ

航空

航空機用ポタシウム
AUV用フラックスゲート
ポタシウム磁力計搭載ドローン

地下電磁探査

TDEM測定器
比抵抗測定器
全磁力サーベイ



有限会社テラテクニカ

〒208-0022 東京都武蔵村山市榎 3-25-1
TEL:042-516-9762 FAX:042-516-9763
カナダGEM Systems社 日本代理店

<http://www.tierra.co.jp/>

この星に、たしかな未来を

— OUR TECHNOLOGIES, YOUR TOMORROW —

私たち三菱重工は、次の世代の暮らしと、そこにある幸福を想い、人々に感動を与えるような技術と、ものづくりへの情熱によって、たしかな未来を提供していくことを目指します。そのために私たちは、これまで培ってきた技術を磨くとともに、新たな発想で様々な技術を融合させるなど、さらなる価値提供を追求し、地球的な視野で人類の課題の解決と夢の実現に取り組みます。



三菱重工業株式会社 www.mhi.co.jp

〒108-8215 東京都港区港南2-16-5

Tel 03-6716-3111

 **三菱重工**

この星に、たしかな未来を



地球電磁気学研究・地球惑星圏科学をサポートする、
高性能磁気測定機器を日本のお客様へご案内させていただきます。

海底電位差計用
 銀-塩化銀電極
 EL-1

【クローバテック製品】



フラックスゲート
 磁力計

超伝導磁力計

2G Enterprises



地球電磁気学研究と共に クローバテック株式会社

<http://www.clovertech.co.jp>

TEL0422-37-2477 FAX0422-37-2478

明星電気株式会社

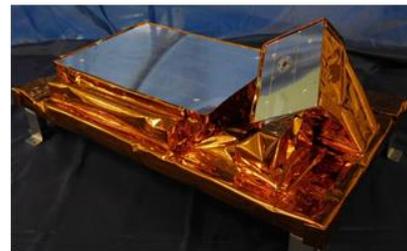
国際宇宙ステーション搭載カメラ



親アーム先端取付型プラットフォーム (MPEP) 搭載カメラ
 「きぼう」ロボットアームに取り付けられ、ISSに接近する
 「こうのとり」9号機の映像を取得。



「きぼう」船外プラットフォームに取り付ける
 次世代ハイビジョンカメラ (HDTV-EF2)



PM surface mission assy
 「こうのとり」9号機に取付け、ISSに接近する際の
 映像を取得、無線LANでISSに伝送に成功。

国際宇宙ステーション (ISS)「きぼう」日本実験棟や
 宇宙ステーション補給機「こうのとり」に搭載された各種のカメラ

日本の宇宙開発草創期から参画し、現在までに
 約3,000個もの観測機器を宇宙に送り出しています。

明星電気は、独自の技術、**Sensing & Communication** –
 「計る技術」と「伝える技術」をコアに、国内外の宇宙開発に貢献しています。

宇宙防衛事業部営業部東京都江東区豊洲三丁目1番1号

TEL:03-6204-8252 MAIL: aerospace@meisei.co.jp

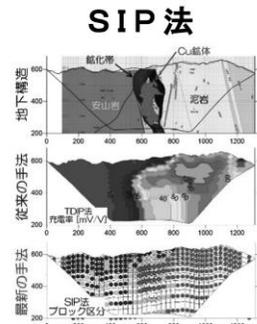
www.meisei.co.jp 採用情報随時更新中

IHI GROUP
 Realize your dreams





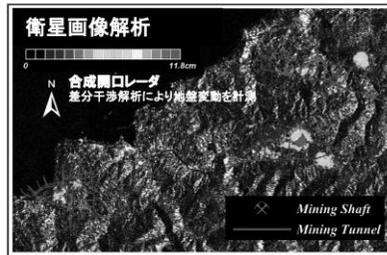
MT法 現場から解析まで長年のノウハウ
MT法電磁探査は、自然の電磁場信号を用いて行う比抵抗探査手法です。他の比抵抗探査手法よりも探査深度が深く、地下数十kmまで探査が可能です。このため、地殻構造調査や地熱構造調査に多くの実績があります。また、測定周波数の高いAMT (Audio Frequency MT) 法探査を用いることにより、地下1km程度までの詳細な探査も可能で、トンネル掘削前の土木地質調査や断層調査への実績があります。測定システムは可搬性に優れ、騒音振動はありません。



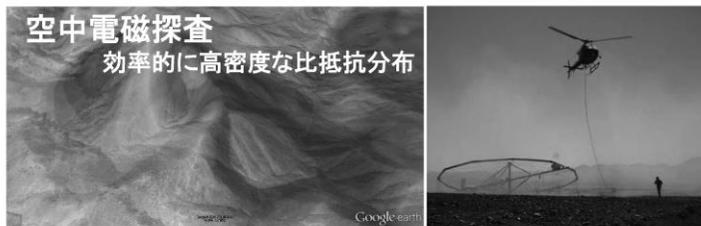
SIP法は、地下の周波数特性を調べる電気探査手法です。通常のTDIP法よりノイズ耐性が高く、得られるパラメータも多いことから、次世代の電気探査法として注目を集めています。含有物に依存する周波数特性を測定することで、今まで以上に詳細に岩種を区別することが可能になります。



ジオレーダ
ジオレーダはミリ波あるいはマイクロ波帯の電波を照射し、火山や地滑り斜面、鉱山切羽などで反射した成分を受信します。受信記録に差分干渉解析を適用することで、観測ターゲットの微小変位を常時モニタリングすることができます。レーダアンテナは水平及び垂直方向に回転する機構を備えていますので、面的なデータ集積が可能となります。



衛星画像解析
人工衛星に搭載された光学センサーやレーザセンサーは、数m程度の高い空間分解能で、数十〜数百km四方の広範囲の地表情報を記録し、画像化します。リモートセンシングでは、衛星画像を解析することにより、地球上のあらゆる地域の情報を遠隔的に収集することが可能で、人工衛星が周期的に地球を周回しますので、地表状況の定常監視に応用できます。



空中電磁探査
効率的に高密度な比抵抗分布
空中物理探査は、固定翼機やヘリコプターを用いて行う物理探査手法です。空中から調査を行うため、地表からアクセスが困難な地区の情報を容易に得ることができ、1日に数百kmにおよぶデータを取得することが可能です。測定項目には、磁場強度、重力、放射能強度および電磁場強度があり、お客様のニーズに合わせた測定項目をご提案いたします。

日鉄鉱コンサルタント株式会社

ホームページ: <http://www.nmconsults.co.jp/>
E-mail: geophy@nmconsults.co.jp (物理探査部)
東京都港区芝4-2-3 NMF芝ビル 3F Tel:03-6414-2766 Fax:03-6414-2772

学会からのお知らせ

Earth, Planets and Space
Open Access for the Geosciences
Impact Factor (2019): 2.075, 5-year IF (2019): 2.472

特集号の提案

EPS では、特集号の提案を随時受け付けております。研究プロジェクトの最新の成果の発表の場としてご活用ください。詳しくは、以下をご参照ください。
<https://earth-planets-space.springeropen.com/proposals>

SGEPSS に関係の深い最新・投稿受付中の特集号

- [20th Anniversary Issue: Earth, Planetary, and Space Sciences in the Next Decade](#)
- [International Geomagnetic Reference Field - The Thirteenth Generation](#)
- [Characterization of the geomagnetic field and its dynamic environment using data from space-based magnetometers](#)
- [The 13th International Conference on Substorms](#)
- [Solar-Terrestrial Environment Prediction: Toward the Synergy of Science and Forecasting Operation of Space Weather and Space Climate](#)
- [Martian Moons eXploration: The scientific investigations of Mars and its moons](#)
- [VLF/ELF Remote Sensing of Ionospheres and Magnetospheres](#)

賛助会員の募集

SGEPSSの事業は、賛助会員の皆様のサポートを受けております。賛助会員の皆様には、以下の広告サービスを行っておりますので、入会についてご検討ください。

- ✓ [学会 Web トップページ](#)でのロゴマーク掲載
- ✓ [賛助会員様一覧ページ](#)への情報掲載
- ✓ 定期刊行の会報における広告記事掲載

エディテージの英文校正・学術翻訳サービス

5領域20の専門チームが1,200以上の専門分野をカバー創業14年 56万稿以上の豊富な校正実績

ed/tage
by CACTUS



英文校正・論文校閲サービス

ジャーナル投稿前の英語論文を国際出版レベルの英語に仕上げるアカデミック英文校正・英文添削サービス。専門分野の博士号・修士号または国際認定BELS取得校正者が高品質、低価格且つ業界最高レベルの納品スピードで原稿を出版に適した状態に校正します。

プレミアム英文校正プラス



論文の論理校正まで踏み込んだパラグラフ毎に校正。365日無料の再校正サービスと査読コメント対策で投稿プロセスまでカバー。

料金(税抜) 15円~/単語

プレミアム英文校正



論文の論理構成にまで踏み込んでパラグラフごとに校正。365日間無料再校正つきで論文の原稿修正に何度でも対応するワンランク上の校正サービス。

料金(税抜) 11円~/単語

スタンダード英文校正



当日納品可。原稿の文法、英語構文、語彙選択など英語面を徹底的にチェックするサービス。初回の注文時に+2円/単語で365日無料再校正(1回)が適用。

料金(税抜) 5円~/単語

エディテージ



ed/tage
by CACTUS

www.editage.jp

エディテージはカクタス・コミュニケーションズのサービスブランドです。

カクタス・コミュニケーションズ株式会社
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-4-1 TUG-I ビル 4F

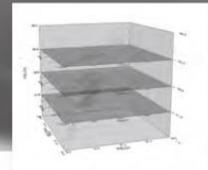
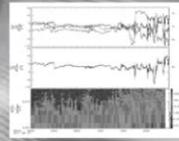
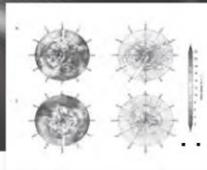
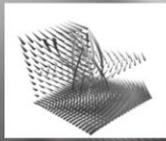
お問合せ:03-6868-3348 | submissions@editage.com



IDL

Discover What's In Your Data.

電磁圏・プラズマ研究分野でのスタンダードソフトウェア



IDLは、コロラド大学大気宇宙物理学研究所出身のDr. David Sternにより、より効率的にデータ処理から可視化までを、クロスプラットフォームOS上で実行出来るように研究者視点から開発されております。

現在、地球電磁気・地球惑星圏学会の皆様はIDLをTHEMIS衛星データ処理(TDAS)やSuperDARNデータ処理などで多くご利用されていると思います。最新のIDLでは対話形式だけではなく、開発環境やプログラミング自体も大幅に改良され、表示やフォントも綺麗で使い易くなっております。【最新版IDL無償評価版お問合せください】

HARRIS
TECHNOLOGY TO CONNECT,
INFORM AND PROTECT™

Exelis VIS 株式会社

■本社 / 東京オフィス

〒113-0033 東京都文京区本郷1-20-3 中山ビル3F

TEL: 03-6801-6147 / FAX: 03-6801-6148

■大阪オフィス

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-1-23 コウダイ肥後橋ビル5F

TEL: 06-6441-0019 / FAX: 06-6441-0020

URL > <http://www.exelisvis.co.jp/> MAIL > sales_jp@exelisvis.co.jp

Springer eBook 地球科学・天文学関連コンテンツ

研究にも、教育にも最適なイーブック・コレクション

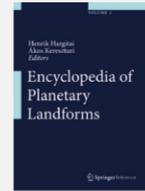
- 分野別、出版年別にパッケージ化した買い切り商品
- 広範な領域を網羅
- 利用価値の高いレファレンスや、ブックシリーズ、テキスト、モノグラフを含む幅広いコレクション
- 一冊まるごと、章ごとでもダウンロード可能
- 同時アクセス無制限、プリントアウト可能で教材にも最適。学生の教材費を軽減。
- 時、場所、デバイスを選ばず利用でき、移動の多い多忙な研究者に最適

| 分野 | 累計出版点数 | 2017年予定出版点数 |
|-----------|---------|-------------|
| 地球科学・環境科学 | 5,700点 | 390点 |
| 物理学・天文学 | 10,000点 | 430点 |

ご所属の機関で使えるeBookをご存じですか？
 利用可能コンテンツ、タイトルリスト、お見積りなどご希望の方はお問合せください。

シュプリンガー・ネイチャー インスティテューショナル・マーケティング

• Tel: 03-4533-8091 • Fax: 03-4533-8081 • Email: jpmarket@springernature.com



springer.com

Part of **SPRINGER NATURE**



学術論文の翻訳なら、翻訳ユレイタスへ

お客様満足度 **99.45%**

論文翻訳ユレイタスは、研究論文に特化した日英・英日翻訳サービスを提供します。論文専門の翻訳チームが、研究成果の世界への発信をサポートいたします。

ユレイタスの選ばれる理由

ボリューム割引
最大40%

- 分野の専門家が翻訳**
1117の専門分野の中から、原稿の内容ともっとも合致する翻訳者を選出。
- 修士・博士号を持つ翻訳者**
高い専門知識を有する、平均経験年数10年以上のスペシャリストが2000人以上在籍。
- 回数無制限の翻訳修正**
何度でも訳文の手直しを行う修正保証制度「あんしん保証」。(日英翻訳)
- 年中無休で営業**
土曜や日曜、祝日もご注文をいただくことが可能。

NEW



ご利用のたびにポイントがたまり、たまったポイントで無料サービスが受けられる
研究者のためのリワーズクラブがあります。

論文翻訳・学術翻訳ユレイタス: www.ulatus.jp

request@ulatus.com

電話受付: 月~金 10:00~20:00 土 12:30~21:30
03-5050-5373

株式会社 NTシステムデザイン

地球物理学・地震火山研究向け
測定器開発・製造・販売

オモロイ研究をしている人と
オモロイ仕事をしたい!



www.nt-sys.jp

facebook.com/ntsysd



MT観測用 電場観測装置
ELOG-DUAL

地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)

- 会長 大村善治 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学 生存圏研究所
TEL:0774-38-3811 FAX:0774-38-3600 E-mail: omura@rish.kyoto-u.ac.jp
- 総務 海老原祐輔 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学 生存圏研究所
E-mail: ebihara@rish.kyoto-u.ac.jp
- 広報 阿部修司(会報担当) 〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744
九州大学 国際宇宙天気科学・教育センター
TEL:092-802-6240 FAX:092-802-6240 E-mail: abeshu@icswse.kyushu-u.ac.jp
- 吉村令慧(会報担当) 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学 防災研究所
TEL:0774-38-4225 FAX:0774-38-4190 E-mail: ryokei@eqh.dpri.kyoto-u.ac.jp
- 山本衛(会報担当) 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学 生存圏研究所
- 運営委員会(事務局) 〒650-0034 神戸市中央区京町83番地 三宮センチュリービル 3階
(株)プロアクティブ内 地球電磁気・地球惑星圏学会事務局
TEL: 078-332-3703 FAX: 078-332-2506 E-mail: sgepss@pac.ne.jp